Ⅲ　一～五類全数把握感染症

一～五類全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は、全国、大阪府ともに発生はなかった。尚、結核については、下記ホームページを参照されたい。

（財）結核予防会結核研究所 疫学情報センター：http://jata.or.jp/rit/ekigaku/

（文責：中川）

3、三類感染症

●コレラ

平成 24 年のコレラの届出数は 1 例であり、平成 23 年と同数であった。推定感染地域はインドであった。

●細菌性赤痢

平成 24 年の細菌性赤痢の届出数は 29 例であり、平成 23 年の 13 例に比べ増加している。
菌種別では *Shigella flexneri* (B 群) が 1 例、*S.boydii*(C 群) が 1 例、*S.sonnei* (D 群) が 27 例であった。推定感染地域は、インドネシアが 2 例、インドが 1 例、ベトナムが 1 例、モロッコが 1 例、国内が 24 例であった。
国内事例については、枚方保健所管轄での集団発生事例（19 例）が含まれる。

●腸チフス

平成 24 年の腸チフスの届出数は 1 例であり、平成 23 年の 2 例より、1 例減少した。推定感染地域はインドであった。

●パラチフス

平成 24 年のパラチフスの届出数は 4 例であり、平成 23 年の 2 例より、2 例増加している。
推定感染地域はインド（2 例）と国内（2 例）であった。
国内事例はインドより帰国した者の接触者であった。

コレラ

週 / 府・市	1月				2月				3月					4月				5月					6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府																										
大阪市																										
堺市																										
高槻市																										
東大阪市																										
合計																										

細菌性赤痢

週 / 府・市	1月				2月				3月					4月				5月					6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府	1								1	12	5	1														
大阪市		2						1							1											1
堺市																										
高槻市																										
東大阪市																										
合計	1	2						1	1	12	5	1			1											1

腸管出血性大腸菌感染症

週 / 府・市	1月				2月				3月					4月				5月					6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府	2	2				2			1			1				1	1							2	3	1
大阪市							1						1		1	1				1	1	34	82	2	6	8
堺市																							3		1	
高槻市																										
東大阪市																							1	2		
合計	2	2				2	1		1			1	1		1	2	1			1	1	34	86	6	10	9

腸チフス

週 / 府・市	1月				2月				3月					4月				5月					6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府													1													
大阪市																										
堺市																										
高槻市																										
東大阪市																										
合計													1													

パラチフス

週 / 府・市	1月				2月				3月					4月				5月					6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府								1	1					1			1									
大阪市																										
堺市																										
高槻市																										
東大阪市																										
合計								1	1					1			1									

7月				8月					9月				10月				11月					12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
		1																								1
		1																								1

7月				8月					9月				10月				11月					12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																	1									21
1							1					1														8
1							1					1					1									29

7月				8月					9月				10月				11月					12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
3	4	3	1	2	4	4	2	6	3		1	5		1			1		1			1				58
3			2	4	1	1	2	1	2	3		2	2		1	1	1	1								165
	1		1					1		3				1							1					12
		2					1	1	1					1												6
							1					1	1					1							1	8
6	5	5	4	6	5	5	6	9	6	6	1	8	3	3	1	1	2	2	1		1	1			1	249

7月				8月					9月				10月				11月					12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																										1
																										1

7月				8月					9月				10月				11月					12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																										4
																										4

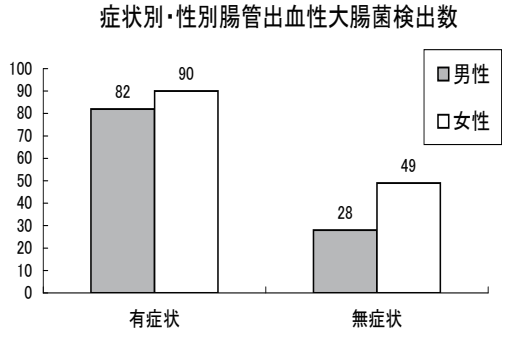
●腸管出血性大腸菌感染症

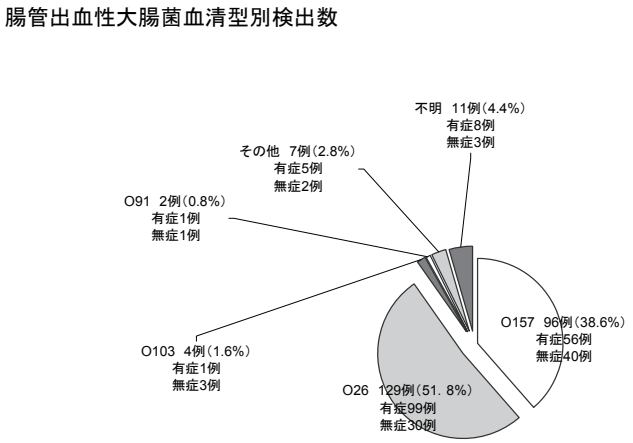
平成 24 年の腸管出血性大腸菌感染症の届出数は 249 例であり、平成 23 年の届出数 185 例に比べて増加している。

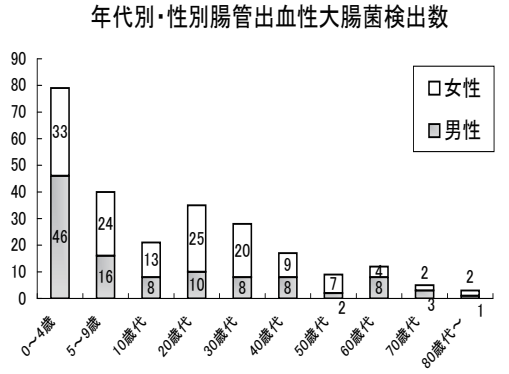
血清型別では O 26 が 129 例（51.8%）、O 157 が 96 例（38.6%）、O 103 が 4 例 (1.6%)、O 91 が 2 例（0.8%）、その他が 7 例（2.8%）、不明が 11 例 (4.4%) であった。そのうちＨＵＳ発症例は 3 例 (1.2%) であった。

また、症状別では有症状者が 172 例（69.1%）、無症状病原体保有者（以下、無症状者）が 77 例(30.9%)であった。血清型別有症・無症状者数は O 157 では有症状者が 56 例(58.3%)、無症状者が 40 例（41.7%）、O 26 では有症状者が 99 例（76.7%）、無症状者が 30 例（23.3%）、O 103 は有症状者が 1 例（25．0%）、無症状者が 3 例（75.0%）、血清型不明では、有症状者が 8 例（72.7%）、無症状者が 3 例（27.3%）であった。その他の有症状者は 5 例（71.4%）、無症状者は 2 例（28.6%）であった。

性別では、男性 110 例（44.2%）、女性 139 例（55.8%）であった。
症状別・性別菌検出者数は有症状者（172 例）では男性 82 例（47.7%）、女性 90 例（52.3%）、無症状者（77 例）では男性 28 例（36.4%）、女性 49 例（63.6%）であった。







月別患者･保菌者届出数をみると、届出がない月はなかった。多い順に、6 月の 111 例、5 月の 36 例、次いで 7 月の 31 例で、この 3 か月で全体の 71.5%を占めている。

平成 24 年においては、大阪市における集団発生事例（O 26）115 例が含まれている。その内訳は乳幼児 75 例 (65.2%)、成人 40 例 (34.8%)、有症状者 86 例（59.1%）、無症状者 47 例 (40.9%) であった。

都道府県別でみると、届出数の多い順に北海道、福岡県、東京都、大阪府となっている。

４. 四類・五類感染症（全数把握分）

平成 24 年における四類・五類感染症の届出数は、22 疾患 977 例であった。平成 23 年の 22 疾患 633 例に比べると、疾患数は同数であるが、届出数は 344 例（54.3%）の増加であった。

四類感染症の届出数は 8 疾患 110 例であった。前年に比べ疾患数は同数であるが、前年届出の無かったＥ型肝炎、エキノコックス症がそれぞれ 5 例、1 例の届出があった。また、前年届出のあったチクングニア熱、ボツリヌス症については届出が無かった。届出数は 18 例（19.6%）増加した。増加した疾患のうち、デング熱は 32 例の届出があり、前年の 16 例に比べ 16 例（100.0%）の増加であった。Ａ型肝炎は 12 例の届出があり、前年の 5 例に比べ 7 例（140.0%）の増加であった。

減少した疾患のうち、レジオネラ症は 56 例の届出で、前年の 61 例に比べ 5 例（8.2%）の減少である。オウム病､マラリアはそれぞれ 1 例､2 例の届出があり前年に比べ 2 例（67%)、2 例（50.0%）の減少である。

五類感染症の届出数は 14 疾患 867 例であった。前年と同数の疾患数であるが、クリプトスポリジウムは届出が無かったが、先天性風しん症候群が 1 例届出された。届出数は 326 例増加した。増加した疾患のうち、風しんは 410 例の届出があり、前年の 53 例に比べ 357 例（673.6%）の増加である。梅毒は 98 例の届出があり､前年に比べ 22 例（28.9%）の増加、ウイルス性肝炎は 28 例の届出があり 6 例（27.3%）の増加である。

減少した疾患のうち、後天性免疫不全症候群は 177 例の届出があり前年の 230 例に比べ 53 例（23.0%）の減少、劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 7 例の届出で前年の 11 例

四類・五類全数把握感染症届出数

類別	疾患名＼届出数	大阪府内計		全国計	
四類	Ｅ型肝炎	5	(0)	119	(61)
	Ａ型肝炎	12	(5)	158	(176)
	エキノコックス症	1	(0)	17	(18)
	オウム病	1	(3)	8	(13)
	回帰熱	0	(0)	1	(0)
	Ｑ熱	0	(0)	1	(1)
	コクシジオイデス症	0	(0)	2	(2)
	チクングニア熱	0	(1)	10	(10)
	つつが虫病	0	(0)	436	(461)
	デング熱	32	(16)	221	(112)
	日本紅斑熱	0	(0)	170	(190)
	日本脳炎	0	(0)	2	(9)
	ブルセラ症	0	(0)	0	(2)
	ボツリヌス症	0	(1)	3	(6)
	マラリア	2	(4)	73	(78)
	ライム病	0	(0)	11	(9)
	類鼻疽	0	(0)	0	(3)
	レジオネラ症	56	(61)	898	(819)
	レプトスピラ症	1	(1)	30	(27)
	四 類 合 計	110	(92)	2160	(1,997)
五類	アメーバ赤痢	85	(87)	931	(814)
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎をのぞく)	28	(22)	235	(249)
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎をのぞく)	22	(20)	361	(259)
	クリプトスポリジウム症	0	(1)	6	(8)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	8	(10)	183	(136)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	(11)	243	(198)
	後天性免疫不全症候群	177	(230)	1,427	(1,523)
	ジアルジア症	10	(5)	72	(68)
	髄膜炎菌性髄膜炎	1	(2)	15	(12)
	先天性風しん症候群	1	(0)	5	(1)
	梅毒	98	(76)	891	(827)
	破傷風	2	(2)	117	(114)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	14	(10)	91	(73)
	風しん	410	(53)	2,391	(374)
	麻しん	4	(12)	285	(443)
	五 類 合 計	867	(541)	7,253	(5,099)
	合　　計	977	(633)	9,413	(7,096)

( )内は平成23年のデータ

疾患名＼届出数	大 阪 府 内 再 掲				
	大阪府	大阪市	堺市	東大阪市	高槻市
アメーバ赤痢	36 (25)	39 (51)	5 (3)	2 (7)	3 (1)
後天性免疫不全症候群	27 (28)	133 (185)	13 (15)	1 (0)	3 (2)
梅毒	14 (13)	75 (57)	6 (2)	1 (2)	2 (2)
風しん	125 (19)	207 (17)	44 (7)	17 (7)	17 (3)

( )内は平成23年のデータ

に比べ４例（36％）の減少、麻しんは４例の届出で、前年の 12 例に比べ８例（67％）の減少である。

五類感染症の届出の上位４疾患、アメーバ赤痢、後天性免疫不全症候群、梅毒、風しんについて、大阪府内を大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市に区分して再掲した。アメーバ赤痢は、大阪府が 25 例から 36 例に、堺市が３例から５例に、高槻市が１例から３例に増加し、大阪市、東大阪市で減少した。後天性免疫不全症候群は、東大阪市、高槻市で１例ずつ増加したが、大阪府、大阪市、堺市で減少した。梅毒は大阪府、大阪市、堺市で増加したが、東大阪市で減少した。風しんは全てのブロックで大きく増加した。増加率は大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市でそれぞれ 5.6 倍、11.2 倍、5.3 倍、1.4 倍、4.7 倍である。青壮年を中心に男性が７割を占めた。先天性風しん症候群が１例報告された。

全国の平成 24 年における四類・五類感染症の届出数を見ると、9,413 例で前年の 7,096 例と比べて 2,317 例（32.7％）の増加である。増加した主な疾患は、四類ではＥ型肝炎、デング熱、レジオネラ症、五類では急性脳炎、風しん、梅毒で、それぞれ 61 例から 119 例、112 例から 221 例、819 例から 898 例、259 例から 361 例、374 例から 2,391 例、827 例から 891 例に増加している。減少した主な疾患は四類感染症ではＡ型肝炎、日本紅班熱、五類感染症では後天性免疫不全症候群、麻しんでそれぞれ 176 例から 158 例、190 例から 170 例、1,523 例から 1,427 例、443 例から 285 例に減少している。

（文責：田中）

●麻しん

平成 24 年の届出数は 4 例であった。前年の 12 例に比べ 8 例（67%）減少した。

麻しん　ブロック別・年齢別報告状況

ブロック	6か月未満	12か月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	14歳	19歳	20歳以上	合計
豊能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
北河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泉州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4

ブロック別では三島 3 例、大阪市 1 例であった。

年齢別届出数では 15 ～ 19 歳に 1 例、20 歳以上に 3 例の届出があった。

週別の届出数は、第 6 週、第 13 週、第 22 週、第 25 週に各 1 例の届出であった。

麻しん 4 症例のうち、海外渡航歴のある輸入麻しんが 2 例あり、そのうちの 1 例の遺伝子型は D 4 型であった。他の 1 例は IgM 抗体価が高値であった。その他、麻しん疑いの検体から麻しんウイルス遺伝子不検出による麻しん否定例が 108 例あり、そのうち 42 例の検体から風しんウイルス遺伝子が検出された。確定診断の為の遺伝子検査の重要性が再認識された。

（文責：田中）